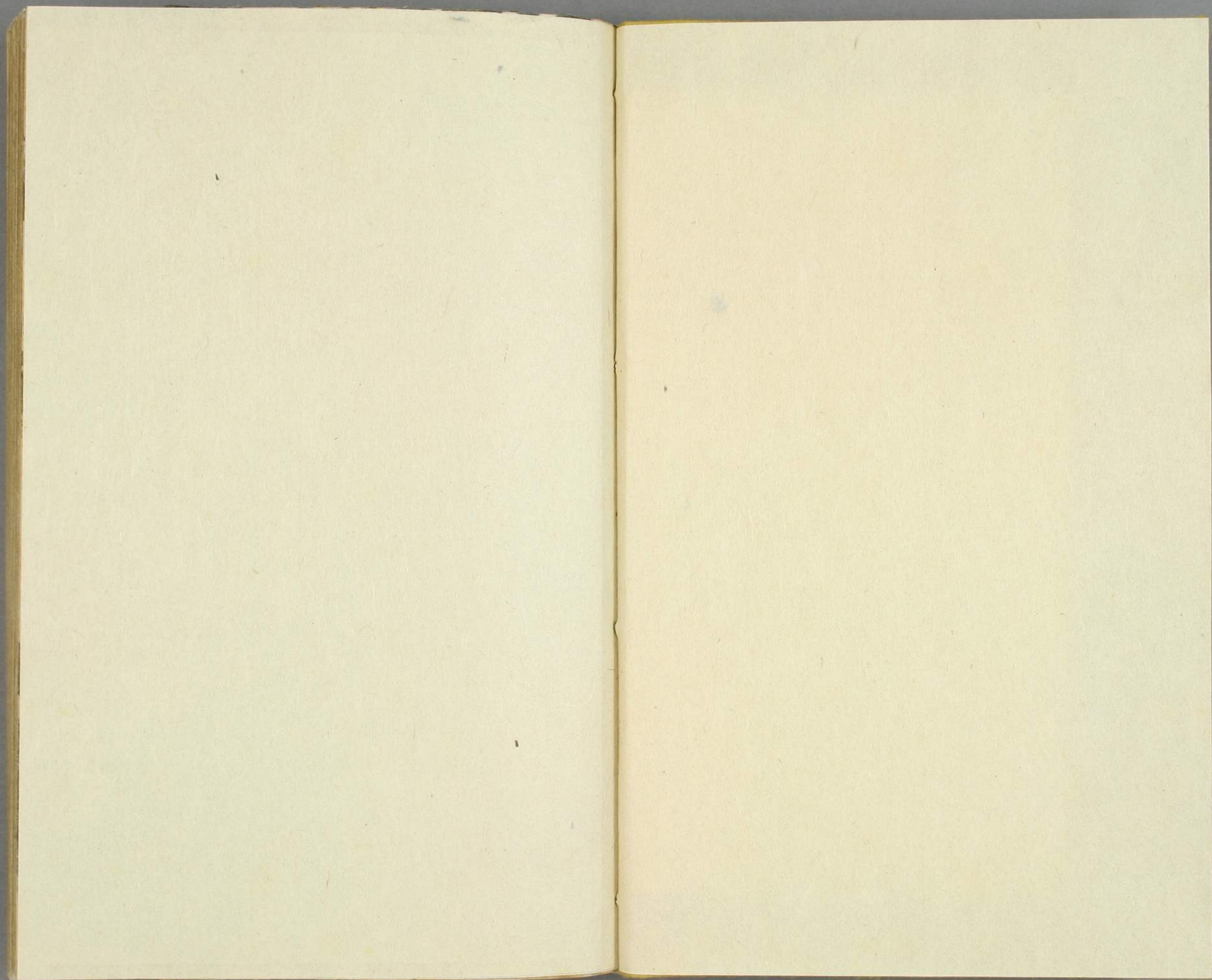


[Blank white label]

特 別
~13
4310





富田世粹子存らぬ一三四五

本
文

刊

霞亭文集

當世粹法手あらふ 序

岡田眞
之藏書

夫はるる上りて天は如く
まはるるまはるる地は如く
ふはるるまはるる生は如く
乃其一人は人間は一人の中
に賢い愚い上下の如く
そのもとに皆一なり

唯天性
之
心
之
幼
之
山
之
事
の
極



粹は手分らん第一

海却く義と安然^{あんぜん}坊^ぼあへま^まま^ま如^かも我^{わが}親^{おや}
の母人^{はは}と一^{いつ}は父^{ちち}の白水^{びやくすい}母^{はは}の赤肉^{せきにく}と合^{あは}伴^{ばん}セ
神^{かみ}佛^{ぶつ}といふ上^{かみ}御^ご土^ど人^{にん}のうら^{うら}も^もせ^せい^い地^ち水^{すい}火^か風^{ふう}空^{くう}
乃^な道^{どう}を^をも^もら^らく^く木^き火^か土^ど金^{きん}水^{すい}の立^た行^{ぎやう}を^をあ^あの^のあ^あ眼^{がん}鼻^び
耳^{みみ}を^をい^いつ^つ及^{およ}び^び珍^{ちん}畜^{しゆく}を^を刺^さし^しは^はを^を立^たつ^つす^する^る月^{つき}日^ひ
より母^{はは}の胎^{たい}内^{ない}を^をき^きき^きり^り棚^{たな}の^のお^おを^をら^らお^おろ^ろす^すま^ま人^{ひと}
とのことせ^せ好^{この}お^おと^と喜^{この}ま^まら^ら生^{なま}ま^まの^のま^まを^をけ^けれ^れ時^{とき}は



せせはむらりりおむらことりき甚しきだき
あふ下は蛇を一寸めくそ氣とあつりておむら
二つめくそ氣とあつりてそ氣の氣くそい
たしことのみ大とそ氣くそいそつりにま
嫁がまへおせしりこといそつりそい
ふくゆびのちん親ゆびとそんでおむら
たじいそぬ助六はなまつちあみそとそ
みやらとそつりおむら口のたしそい
もつりそいそいそいそいそいそいそい

あき中より下の親心はつみふなれそ
車と好む緋のくしむもそとそとそ
あみそ或は板りりれめそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそ
細しゆりの下帯そそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそ

しとれさる人新立乃ふらうをこせおれ向いめ
ふとぬやの洞市あらしとちからくわり幻やふも
天孫んと是等悪たふちまきやまねそのくまのむり
浄國より賈達とつる人あらしのふよしとつ経
とまゝ人ぞり親一門おび海身甚故とく入賈達
がいとく縁中つやの母より姉よとらふはははは乃
そ者乃あくむり書とよむとやまゆり母のちり其
附すまへし一もつもりもれとてとてとてあはれ
おとみれより能事とんせらるる茶をいんてく

八九年ふちまは親の志世の目と剛くやんと通ぬ
のてらまをへしまをさるははははのいはははの
りんもにま教ももまより通ぬ乃く我とおまは
けりまはまあんと秘参とんゆりまらけは道
のほちまをとぬらゆりてぬくま人のらま
あふも男女七才あり席をけりてまがとあまふ
こく女の子のそまをこぬんからまのりりやりま
おうし目づついとまをくしまをけりてまをけりし
とまをけりてまをけりてまをけりてまをけりてま

遊とあつちやーやの身ゆりとけいこすからまき
 ーと能すめあぶたこころ草と屋かけ
 てひまひ髪ふぬー時たまる河をつらひを
 ろくと小を養とせーめぐらるが徳坂の岸ひれ
 どりーとさうらたはま入紙入よえもと入すも
 とんおろくくろくろくーせとま紙を小ま
 紙小菊をまよきたりー透けや救一医者のかつと
 ころふ回一親仁もまひけららせれたのまふかり
 ころれまふらせめて様かーの養もまふかせ

人行遊もころーのめねねとまきけの伊えな紙
 が信をこままを月波の信條のまぐまゐる極
 のあのみまゝい悪世のあーまるとくりあつら
 秘の由もさうららろくー友連しにころいぬ
 禁裏のまゝとんもはるやいにおりくと二階へ
 あがとららや中右らまゝいこまゝろくやと極
 平の松屋さおろくろくまのふらこ三人
 ころまろく一本の葉のまゝはらとまゝろく
 花もろくーまゝとまゝろく調よてめれ



本
利

もいつらうらげん汁とぬこひんさう様をかき
て下にあしど後をねぼしそらうやう
やうに成く入るなま入とおおれ人よ通
ぬらうまほしとあかへらうしとらう
じまふの神のまの可きおん新地の徳く
友達が勝といふまけさやけさうつとあ
くれ月おひりやこあやちほあま子体
ぼそつとさうあまじとらう新にが
つと紙入の蓋ふとあへ戸棚のかまに掛
つけ

秤のちふらぬ才ニ

岡田眞
之藏書

唯持と第一とく色里の金もふ取
面町とあおとみるも代が方らうあま
もんねら自分あつとつとばとこせん
は戸状とくさきしやあらと店さ
あまねと成あへはさうしてま代ま
とまんといつとさうさうさうさ
あまをよまこ此おはるの山内
はいふはあが新秤あまのさう
あんと

ていふふ新多船を一年くはぶくちやる船が
ほらちておつと時をふらぐい備おの石多氣めて
船の帳久ん切と見えさしませあさうしと十分一
まとい門を合ひひきよける家と御後よむわく
くるおの入りなりそきにまらぬらとともおもひ
船合ひらふちあられ信を一のヤ被のけいこと
大方よと申のたご入居つとつう通んと文り
時よんでつらう七夜まやうとともり着とら
重くおとむと能きとちとつうと雲の町の医

者けんのあつと見てまうはわくあさひ日くれ
はく也と着のまもささかかけまう二三所はた
るもあつとお説てらぬらくとさしあれたと人
と那松乃金新しととととととととととととと
心入るもささかや其通ととととととととととと
取入ますとととととととととととととととと
もたつととととととととととととととととと
ふあつととととととととととととととととと
らつととととととととととととととととと

糸が顔と親仁の顔とえんくんとんいんが
えんくんとはもよこいんあつてあつて
うつじわくあやまり入くとえせまが
たみごころくこしあんなあなわい
ては
剛子お子まや
よあまげせかーいおまじこ鬼の
さす鼻もかんやうまよま
暖

あつて其すし横所の少高よあづ
け例の寄場へありまが暖をしこの下
目とまろくハ方へ焼い入るゆきは
子納戸へおしよみ小のあはれは
えんくんとはもよこいんあつてあつて
うま居まはるてあつてあつて
お子夜行やうまあつてあつて
うまのあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて



と百日の存美せしげは海軍の秘身一つひつと
やいさくの秘に致し一まふれと先程いかまひ
せんこころうと丸かうしあへる毎夫よこあは
あまもいつしな一にまふ成くもなれえよつと
やいされどいつも毒くも思ひつと我つけも
たらりどむくも願せおまきい毎の信候今
まてあさうきさくさふい男くぬく方遠は
とて小口しさいわいやいは松が悪ひやりても
やいさあこ人のあふまら核理候と云らるる

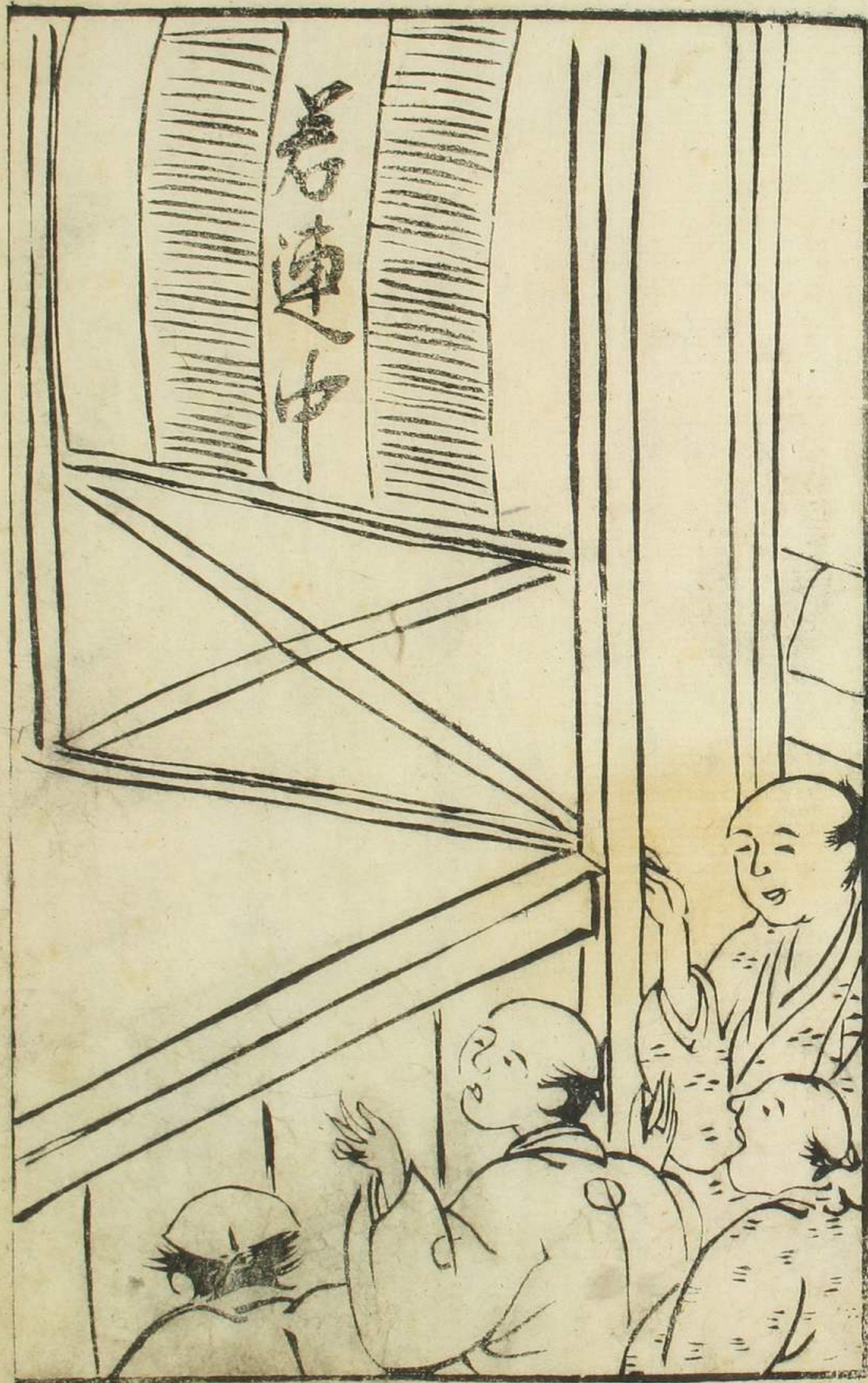
申さるる夢くさしきものく是を此間者少くも
とまの氣其不馴深さ女郎の虚実地娘の
らんえさくありといふと西川が核本國大ま
ふれ文句種々せりまふ今更りも何れ
やいさうやいさうやいさうと云はるる書
はては
藏を身と助るやいさの石仕合まや万能一
先十七八少くえ服一親仁の行勝し
あはる高きまらるる御借門

入つておてもおもむく部徳丸の巻頭と
芭蕉貞徳とくを笛太鼓尺八琴三味
線小三子柱香系鞠揚り音曲と謡曲可
さいとんしんゆりやうりて路本本井と
ち板まておめをやま下りそお挿もやうら中京
八葉草屋のつるまやうんよやめくれ母がうん
くく生けくかゞと土用ハもふうけいけの
うらちらうちんど能はるんらうらうらうら
くく色ど一つく根のしげぬ石白流云あふが

親のゆづりみあふまふと他
様行でいあるもどく
らみ身のうらうら
東の里くういよまき
てと聖は粹とやうらと悦ひまほをいづ
指の股ひろげさあげくうらうら
うらうらまてりうらうら
らねやつもり卯鳴りりねは接あの大はを
と二条の伯父責が揚り居合せ是とんく肝と

ぢー 勢きで新にへ進發せしむるに
小成くもつらんをばらうらうら 妙歌のしごと花
みくもえんく 中居とらんごらんごらん
お報お合なるでとらん 祇園七車が 甚く茶子
お七まこと 妙なるもあのお茶の 妙なるよけりまこ
三人三まあ父の櫻はくーが 妙なる 妙なる 妙なる
このみ明ぬも 妙なる 妙なる 妙なる
すいごまると 妙なる 妙なる 妙なる
のまねらあらしの 妙なる 妙なる 妙なる

連なるのだらめ 妙なる 妙なる 妙なる
妙なる 妙なる 妙なる 妙なる 妙なる
のほいーまらうらうら 妙なる 妙なる 妙なる
中居とお方うらうら 妙なる 妙なる 妙なる
角てあらしめらうらうら 妙なる 妙なる 妙なる
んらば切雲の夢も 妙なる 妙なる 妙なる
むらみの 妙なる 妙なる 妙なる
よすしーい 妙なる 妙なる 妙なる
せしーい 妙なる 妙なる 妙なる



下の町へ遊ばしる響あつてうらうら棒の反らるる松ふ
町田とのどけいいつきもいすし店あけど東角の
茶屋の親にケ門のまん中に運氣かんぐ店と見
付らぬれやくいと借法とさつやくにこそくと軒に
くしゝ我家の門口をさふあけくさくあやし
みぢらどつことしりきぶより口の戸をあけたどと
むく人あつて親にのれ五百の経候と頼こして
ふくふ牛ほくひくもりもあどふらあつて
それとんかしてひひひと大吹竹のやま

うらうらの響あつてうらうら念佛の口の角より
熱湯のはまをのらだ親にけりあつて長生
さまは駄まゝ去々年を病に死んてさうと昔と
丁の半とさきうら復法の初段のまゝまう五きんめ
ま千城のまの本目せし中後半へあつてまじあつめ
まうといふぬらうらんまゝうらうらに目とさし骨
まうらうらに中う射らやうま身うらあつてあつて
店あつてしとゆめあつてまじあつての段も
まひくしてま目とらけすあつてあつてあつて

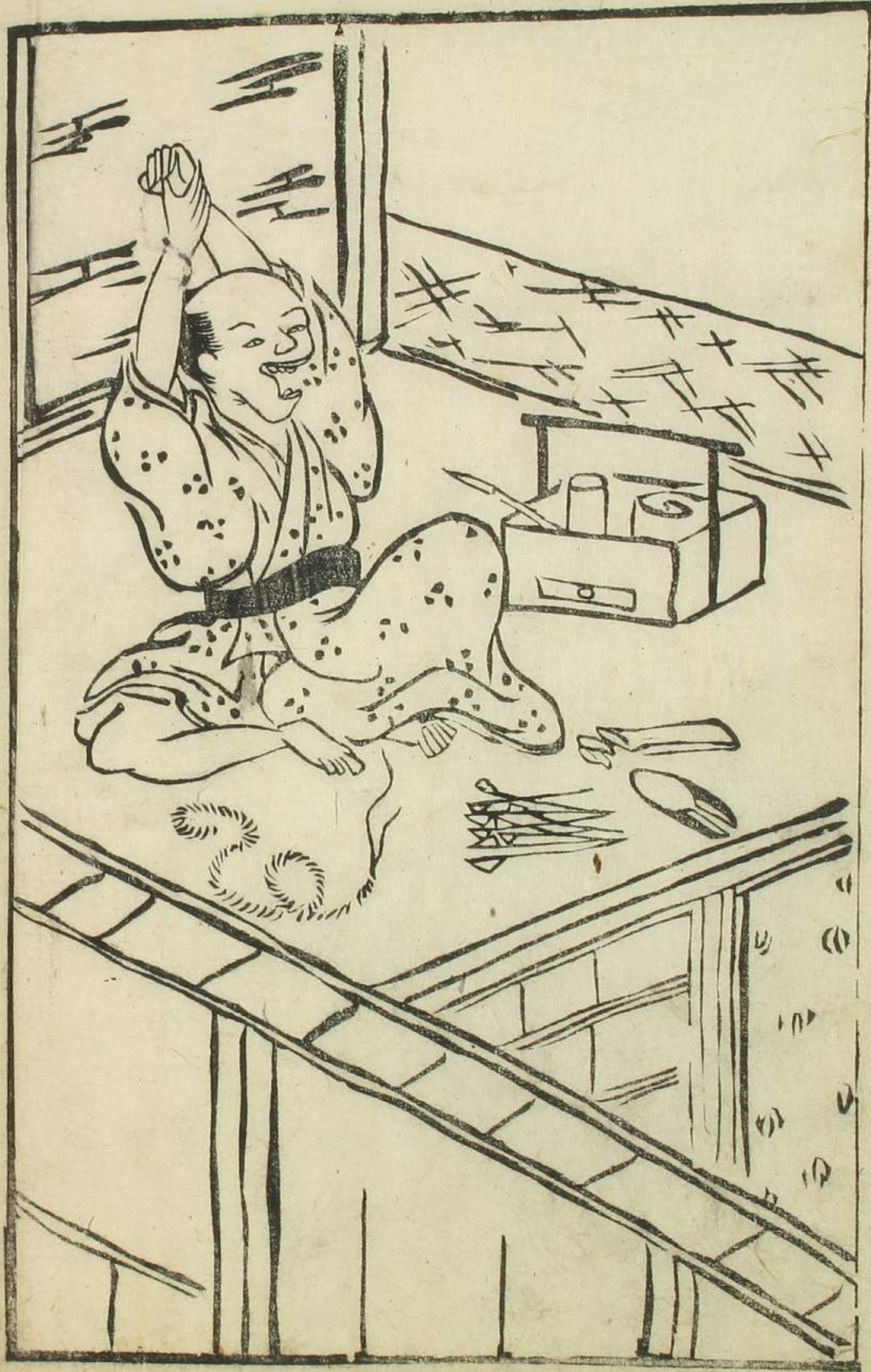
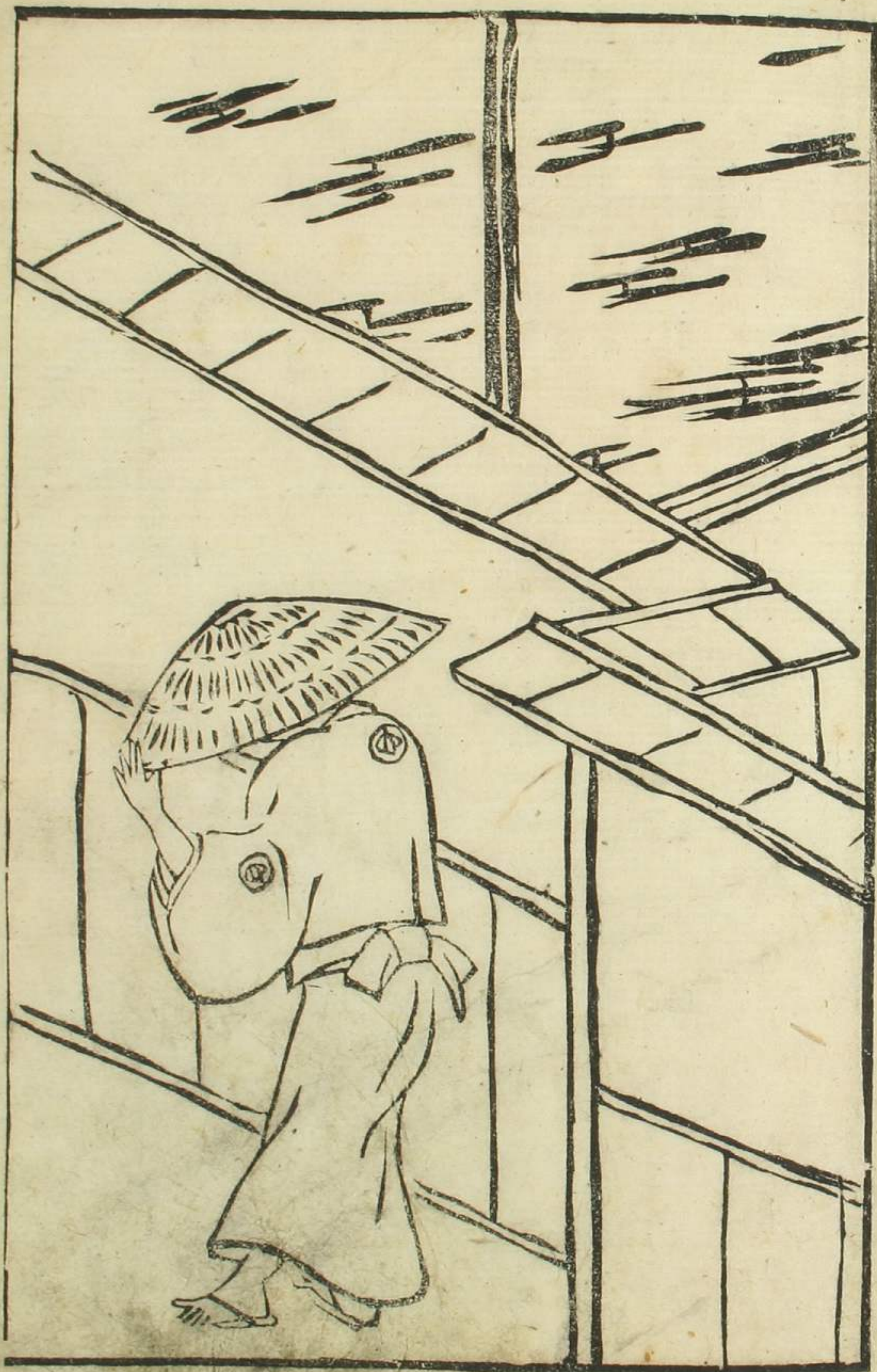
と聞かぬありては言ひを敬らるるに地のみならず
とんともはるるに内なる辰己乃方斗と密に
おもひやりくとあるとわじき結も又かかぬ味を
ましくしんとあて目をつらしらんまふりくと又
よせくしらつしきともめくしんゆひのつら
けくはげちんはまはまふらしんせせりとも
まはげしんししりゆきとも

本
林

すいの子あらむ 第三

岡田眞
之藏書

天とか帝りはを地と走ふ我いつきり子とおも
ぬをぢししし人間の情とふ母の親とど
まると別れむおむかき解ぶとの付やとあて自
身とあへおむけくはむけきし情ははるあまうら
今うたしあみはむけきし情ははるあまうら
月とあはれをわしんむけきし情ははるあまうら
事とあはれをわしんむけきし情ははるあまうら
すあけくししすむけきし情ははるあまうら



三ノ目

せん城一西内の美奈年一うらめあいらん
しん親にのりやうた義とせむるも此は
是が心まれくづ口天ん喰うこもう
景時乃之友の掛懸世千一舞がさかしくハ人の
まゝもさう他とす今も親にがまらぬやうに
成りゆ行くとすあふまやもふまは
の洲川舟のなうくたぬく出舟今うのうら
田よがしれさうくと形もあつたよとや道也
水の新地の新所一のしけあつた天祥と信

しん親にのりやうた義とせむるも此は
是が心まれくづ口天ん喰うこもう
景時乃之友の掛懸世千一舞がさかしくハ人の
まゝもさう他とす今も親にがまらぬやうに
成りゆ行くとすあふまやもふまは
の洲川舟のなうくたぬく出舟今うのうら
田よがしれさうくと形もあつたよとや道也
水の新地の新所一のしけあつた天祥と信

親友のそくざりて今度とありはけり
の病傷入りの候に親のあまも
内とて此所めと安んずるに
るけり此れまがかりてたや
がけりなむのりてや
へあの病もいらぬと
今も病のそばにいらぬ
と云はずいかにんよ
親にいらつ移りて

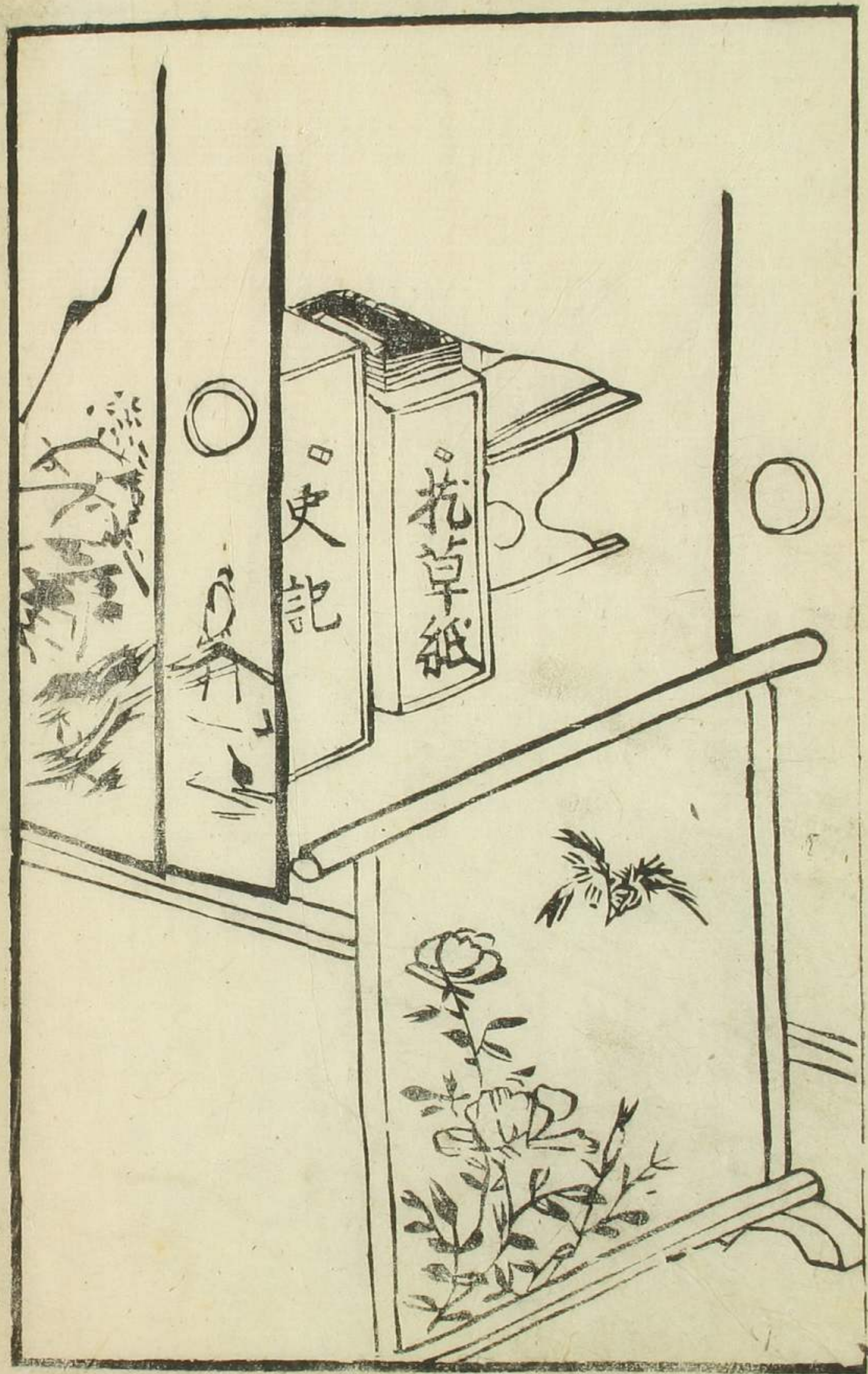
おのこが身作のやうにして
人よりしるすむく物也
傳ふ口達の格もちがひが
さぐい親にみたり
名匠のかきても病のえ
はゆり病の体終はせ
かくし其泉のき
我々の不孝と
るく斯くありて

今やこれ同じ家よりみづから仁徳のあまじく如素に對
 面し今やいぢぢあもつた子の念佛ありてこの宗
 乃音いんんの者よきうとあ本のかかりんせんり
 とまのかり中居の茶あまじく高坊のけさる海と
 とかまらほそのおらあれよつとく今幸氣あつ成と
 七日くのつとみ佛あづりにえ後とかうれえ
 や人間のきむく一五十年をまり其上のせし
 てもこの益うあんどくつとく首さうくあつ
 秘つとらひめつとれち助橋のたをいす

一とまんもらむいへま幸少とあび世信よみ命い
 おどひつとを修らとひとみ津一や
 陰徳あまは陽報あり五ナ町乃峠とよまみスナ町
 のりりりり人々の盛衰老少不定會者定離
 何もくささうとありて親の命日は墓へま
 今り外門のあまじく紙と肉のうけりも
 思あけられ修むのとつじとままじと
 と母をよめかえつとつとまじと
 今居る氣ほつとつとつとつとつとつと

成とちねしりてて母はりてんかたて
ふもろなるのりと益家都貞が存心とほひ
二三れうりにほるはめらのみくそくお
ふきくゆゆはほしのも極楽とちてのやうに
おのまが友とむせよとちねがりゆいのさうら
と合よけんそふ通きとらふと巴らるる一人後
とそちゆあわれそ一人かてせれたゆは
海よりうらゆとちめおんもこのつら
母と泣きあうとてちまのまか娘かたが
三十七

施すもあど智者人のまふこふちてんか
しつて一か一山体とらるるもけあま
かひしりまかたてとあまのそめあまのそめ
うけおの娘と入後とらるる人々をたあまを
第一とらるる娘と母人の因位すといとくじ
うひのくよりけねまがあまの妻をそくそんとい
あまのちとらるる中くおともめらるる佛の
教みと外面似菩薩内心夜叉とらるるあ
子とちねのちとらるるあまのちとらるる



まうに流のきをすしりんやさかこれあすし
しらやらうの大六天の魔王ちりかあびおまに
たきあふあつかうつううあふまらんあふ人の氣
のうけりやういあふしち反古どもさうしうあに
西川さうい画あふらうがうくけがうく教也に
ゆくうとういとうさうあまうしや仰止編照も女
部也に落馬しえまのあ人も女のうけりあ下
う里のあうとるもりさういさういさういさうい
あふいさういさういあふらうあふらうあふらう

かの外面似井がさういさういさういさうい
うらうあういさういさういさういさういさうい
さういさういさういさういさういさういさうい
かういさういさういさういさういさういさうい
あふらうあふらうあふらうあふらうあふらうあふらう
てはあふらうあふらうあふらうあふらうあふらうあふらう
八山行も白人さういさういさういさういさうい
川狩もあふらうあふらうあふらうあふらうあふらうあふらう

けしきもれ新^{しん}敷^{しき}のなまき^{なまき}かひのてし^{てし}し^し中
 居^いし^しの^の様^{よう}一^{いつ}のお^お金^{かね}ま^まら^らじ^じく^くと^と茶^{ちや}を^をづ^づつ^つら
 う^うき^きら^ら身^み体^{てい}の^のま^まる^るが^がら^らせ^せん^んだ^だい^いし^しの^の分^{ぶん}ら^らと^と云^い
 山^{さん}が^があ^ある^るれ^れあ^あら^らな^なる^る母^ぼく^くに^にい^いふ^ふ思^し
 け^けし^しの^のれ^れし^しも^もく^くら^らま^まし^しも^もい^いふ^ふら^らな^なら^らず^ずか^か
 ら^らの^の敵^{てき}の^のあ^あら^らな^なる^るか^かん^んに^にい^いふ^ふら^らな^なら^らず^ず
 着^きの^のき^きあ^あら^らな^なら^らず^ず一^{いつ}の^の身^みを^をま^まし^して^てい^いふ^ふら^らな^なら^らず^ず
 り^りら^らに^にい^いふ^ふら^らな^なら^らず^ずい^いふ^ふら^らな^なら^らず^ず死^し
 瘡^{そう}と^とす^すら^らな^なら^らず^ずい^いふ^ふら^らな^なら^らず^ずい^いふ^ふら^らな^なら^らず^ず

か^かく^くし^しあ^あの^のや^やし^しな^なら^らず^ず新^{しん}敷^{しき}の^のな^なま^まき^きの^の様^{よう}に^にい^いふ^ふ
 ま^まし^して^てい^いふ^ふら^らな^なら^らず^ずい^いふ^ふら^らな^なら^らず^ず
 飛^と目^めり^り掛^かり^りの^のな^なま^まら^らい^いし^しの^のあ^あら^らな^なら^らず^ずい^いふ^ふ
 な^なま^まら^らい^いし^しの^のあ^あら^らな^なら^らず^ずい^いふ^ふら^らな^なら^らず^ず
 四^しふ^ふく^くは^はら^らな^なら^らず^ずい^いふ^ふら^らな^なら^らず^ず

子



ませねばお茶わげなまをいへるさあ
 とおくともたはらららとほろりさうらうら
 一子ふあさしきんをさあめらるる後のい
 りれらららとゆがよ成てもせんさうのやまに
 まさしはららららら人のさあ一はらららら
 てもしららららららららららららららら
 やりえがあらはほのさうつけらららららら
 おつらららららららららららららららら
 もるもほららららららららららららららら

もころころあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ

かやうにうらやましくあつてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ
らふよふちもあはれ泣いてゐるはなはなとららあ

本与

粹の手ふらひオカ

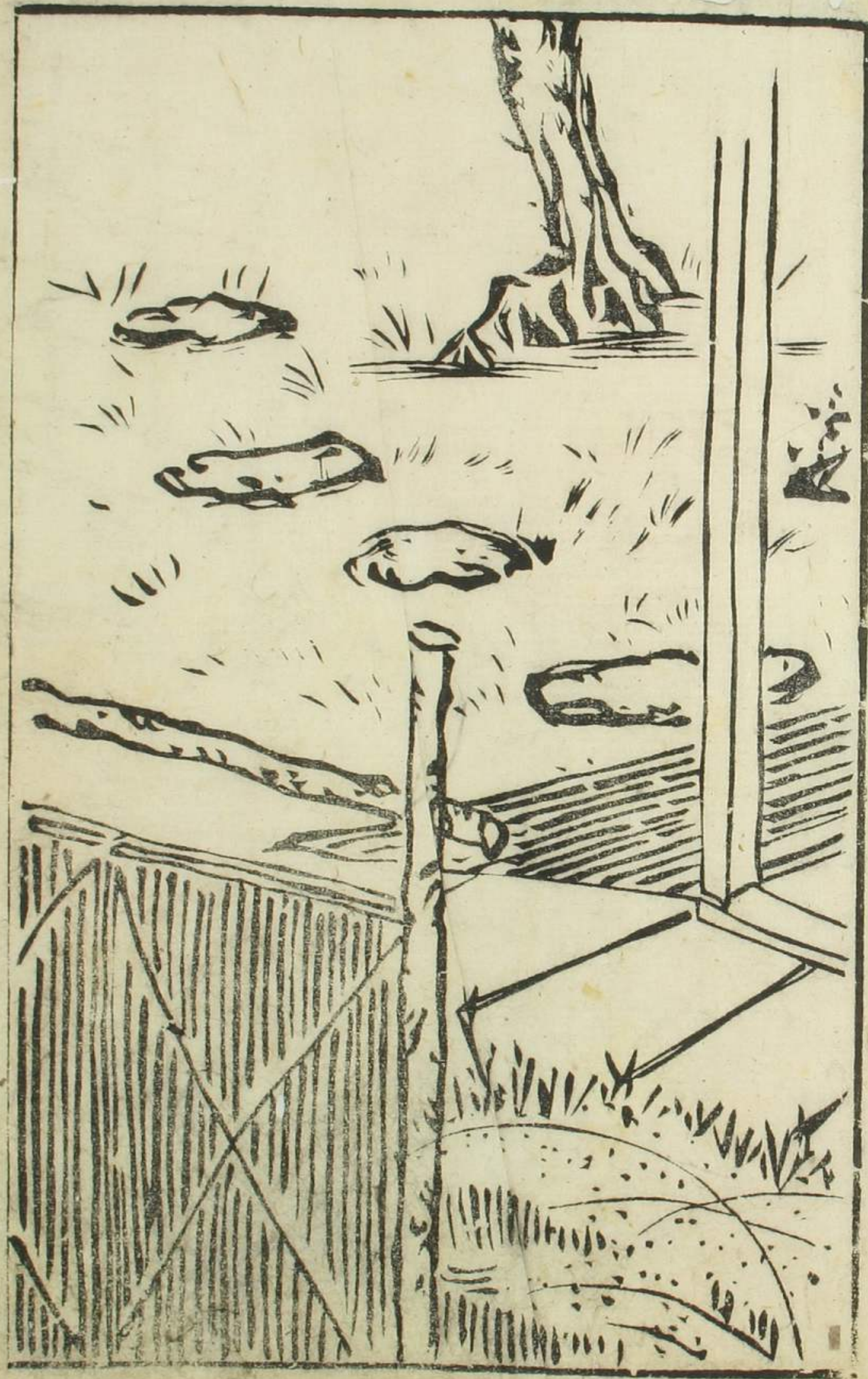
芝蔭射ふ笑れごとと松壁月日の射すて射すく
 あんげんすぞらぐきこのまのやうから界子と生
 す澄みくなくたのの甘くさうまもあがめう
 さはあまらばかあつじしきごとあまらぐみ
 ささか古門よるほ美の節の身也しきさるん
 遠くあまがいのるあまのまもさる美よひもたが
 浮び通のゆちの福うりまよらよのりうごめて
 かく正月のまきるとおのひーむつさるさるめ

八位



よのこも梅との油あげみぢぢと
あません自身にほにれちうりあめ
てまられ一うへんげふ十
とつぢぢく一にらららと
あまらまら

世乃人釋さつと所持さつとあめ
道の心とつとけつとあつと紙子
のまらほつとぢぢとあつと
ちぢいあつと全たあつと釋とつと
ほつとつとあつとあつとあつと
ぢぢぢぢのつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと



しきおんたのらひちり人々の教ふ御下に冠とた
どきずしておんたのらひちり人々の教ふ御下に冠とた
ゆるみらるるは是とあたます其ゆるる御ちとつ社の
とまらびふおんたのらひちり人々の教ふ御下に冠とた
おんたのらひちり人々の教ふ御下に冠とた
又賢人の道氏田一皆と正と此心と如とある時如の
所らやとらひちり人々の教ふ御下に冠とた
ゆるるしとんと真のほらと事しとまらるる聖の道と
とらひちり人々の教ふ御下に冠とた

まらるる淳の音水一通じんらるるも方圓の
うつとあまらるるいすも川らるるすくにほらとゆるる
川らるるゆるるほらとらるるもて其性らるる
なり御美らどららるるものいりまらるる具中らるる
すらるるそれを淳方とららるる又御らるる野の
なりとらるる只取らるるあり度野らるる山火のらるる
がらるる人らるるれ又らるる杖持のらるるまらるる
あらるる御らるるらるるらるるらるるらるるらるる
らるる御らるるらるるらるるらるるらるるらるる

一又夜暮らるるまことして法家の道よりせし
くま兼て心から故くりありのあり者とはこ
通と云ふ人々やうりて天までと云ふと云
理と云ふくうてんほうと云ふ海と云ふくみまら
名と云ふく成人とのいものばうあたよめくと西
ふくこの時あるべしと根と云ふくくも乃波
うらふいつとあつ海と云ふく土の姓水氣と云
て異形とあつてせ予らあつて感心し今客
と云ふくく大聖おちりあつてと云ふく

そはふなまらひわらうとくをたいてお
めらうあつてさくく身土のらと云ふく
備張のふらうと云ふく我うと云ふく
毒氣合伴し後と云ふく
愛しはあつては危ののうらうと云ふく
あつてと云ふくと云ふく
あつてと云ふく
あつてと云ふく
あつてと云ふく

龍くち子^{りゅう}加^かうつとらと^{りゅう}と^{りゅう}で^{りゅう}叶^{りゅう}る^{りゅう}車^{りゅう}ち^{りゅう}り^{りゅう}と
ま^{りゅう}も^{りゅう}ら^{りゅう}ん^{りゅう}平^{りゅう}ら^{りゅう}く^{りゅう}く^{りゅう}は^{りゅう}前^{りゅう}車^{りゅう}せ^{りゅう}り^{りゅう}て^{りゅう}後^{りゅう}車^{りゅう}れ^{りゅう}
美^{りゅう}の^{りゅう}い^{りゅう}ま^{りゅう}ら^{りゅう}又^{りゅう}ら^{りゅう}得^{りゅう}め^{りゅう}と^{りゅう}年^{りゅう}れ^{りゅう}と^{りゅう}色^{りゅう}の^{りゅう}世^{りゅう}
の^{りゅう}ら^{りゅう}ま^{りゅう}ふ^{りゅう}ん^{りゅう}あ^{りゅう}ら^{りゅう}友^{りゅう}ら^{りゅう}心^{りゅう}の^{りゅう}尻^{りゅう}と^{りゅう}か^{りゅう}ら^{りゅう}身^{りゅう}ら^{りゅう}尻^{りゅう}
と^{りゅう}出^{りゅう}く^{りゅう}ま^{りゅう}ら^{りゅう}ぬ^{りゅう}が^{りゅう}要^{りゅう}用^{りゅう}と^{りゅう}追^{りゅう}筆^{りゅう}せ^{りゅう}し^{りゅう}も^{りゅう}ら^{りゅう}あ^{りゅう}ら^{りゅう}也^{りゅう}

